備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成23年度事業）

事業の概要

事業開始年度	平成16年度	根拠法令・例規等	備前市まちづくり基本条例
総合計画 大項目	05 住民主体の協働のまちづくり	問合先 担当課（室）	まちづくり推進課
総合計画 中項目 基本施策	01 住民主体で進めるまちづくり	職・氏名	協働推進係長　万波 文雄
総合計画 小項目 施策	03 ボランティア・NPO	電話	0869-64-1806
事務事業名	02 ボランティア活動支援事業	このシート作成に要した時間	2.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	ボランティア活動に関心のある方
目的（何のために）	ボランティア活動の推進と啓発
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	ボランティア活動への参加者を増やし、市政への参画と協働のまちづくり推進する。

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
人材育成事業	ボランティア活動を担うリーダーなどの人材育成事業。	▲
ボランティア・NPO育成事業	ボランティア・NPOとの協働と活動支援。	◎
ボランティア人材バンクシステム構築	市民・地域活動などに貢献いただく人材バンクの構築。	○

事業費等		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
事業費	直接事業費	千円		7	5
	必要人員 人件費		0.01人 107	0.01人 76	0.05人 397
	事業費計		107	83	402
決算額 財源	国県支出金	千円			
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（　）				
	一般財源		107	83	402
受益者負担比率		%	―	―	―

結果指標名		単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績
結果指標	説明		市内で活動するボランティア団体		
	結果指標量	団体	23	24	25
	対前年比	%	100.0%	104.3%	104.2%
	活動コスト	円	107,000	83,000	402,000
	単位当たりコスト		4,652	3,458	16,080

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標であるべき成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度目標値
ボランティア団体数	目標値（A）	30	30	30	30
	実績値（B）	23	24	25	到達目標値
	達成率（B/A）	76.67%	80.00%	83.33%	30

成果指標設定の考え方・式や説明

協働のまちづくりをすすめる中で重要な役割を担っているボランティア団体を支援し、ボランティア活動の意識高揚を図る。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性 必要性

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- □ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある

市民ニーズ

- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

効率性の評価

コスト 手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

有効性の評価

目的達成度 市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ■ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ■ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

進行年度（H24年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：協働のまちづくりをすすめる中で重要な役割を担っているボランティア団体を支援し、ボランティア活動の意識高揚を図る。また、継続した活動に対して感謝状を贈呈している。

総合評価

岡山県ボランティア・NPO活動支援センター、社会福祉協議会などの関係機関等と連携してボランティア活動を活性化させていく必要がある。

総合評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

Action

平成25年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：まちづくり基本条例に規定されている市民主体の協働のまちづくりを推進するため、ボランティア・NPO関係機関との連携・協働をすすめる必要がある。